

令和4年度第3回 玉野市行政改革推進委員会 議事概要

日 時：令和5年2月16日（木） 14:00～15:20

場 所：玉野市役所3階 特別会議室

出席委員： 大東 正虎 委員（会長） 加藤 珪一 委員（副会長）
住吉 孝文 委員 水本 阿美 委員
大本 敏文 委員 中塚 俊道 委員
土井 清香 委員 江田 康夫 委員
亀田 稔 委員

事務局： 玉野市長 柴田 義朗

玉野市副市長 市倉 勇樹

玉野市財政部長 渡邊 聡志

玉野市財政部財政課長 大賀 英明

玉野市財政部財政課長補佐 相澤 千波

玉野市財政部財政課行革・歳入確保対策係係長 田村 美香

玉野市財政部財政課行革・歳入確保対策係主任 岡本 佑太

1 開会

2 市長挨拶

市長： 皆さんこんにちは。今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

また、平素から玉野市政に様々ご理解ご協力を賜りまして、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

この玉野市行政改革推進委員会第2回を11月に開催いたしましたけれども、その際この行財政改革大綱の素案と、具体化した個別の取組項目をまとめました実施計画の素案についてご協議をいただきました。

その後、今年の1月から2月にかけて、パブリックコメントを実施いたしまして市民の皆様方から様々なご意見をいただいております。

本日はそのいただいたご意見に対しまして、市としての考え方をご説明をさせていただきまして、また、この素案につきましてのご意見をいただきたいと考えております。本市の行財政改革は、不断の取組みとして続けていかなければいけないと考えております。

そのためには市民の皆さんのご意見をいただきながら、より実効性のある改革大綱としていきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

3 議事 新たな行財政改革大綱策定に係るパブリックコメントの実施結果及び最終案について

事務局： (パブコメ結果の概要について説明)

委員A： パブリックコメントの募集に対し、5名から意見が提出されたとありますが、この約1ヶ月間の間で5名からしか意見がなかったということでしょうか。

事務局： ご質問の通りでございます。1ヶ月間ホームページや市民センター等に資料を提示させていただいて意見を募集した結果、5名からのご意見がございました。

委員A： あまりにも人数が。皆さんが興味を持たれていないのかなという感じがします。また、このパブリックコメントの実施について私自身も知らなかったんですけど、ホームページ等でいろいろ呼びかけられてたんだと思うんですけど、少しその方法もまた考えられたらどうかなと思います。

事務局： ご意見ありがとうございます。事前のパブリックコメントの実施のお知らせが少し弱い感じがしております。今回取組を行ってきたのは、ホームページや市民センターへの設置、広報たまのによるお知らせをさせていただいたところですが、この他、どのようなお知らせの方法が効果的であるかについても随時検討しながら対応していきたいと思っております。

委員B： このパブリックコメントですけれども、答える方々もいろんな立場でお答えいただいていると思うんですけど、答えられた方の属性は把握されているのでしょうか。

事務局： 属性についてはお伺いしていません。要件としてはお名前とご住所、玉野市に住まれている方かどうかなど、そういったところを記載していただき、年齢や性別についてはパブリックコメントの募集の段階では求めていません。

委員B： 今後もしこれを改善していくということがあれば、そういったこともあった方が、どういう立場でお答えいただいたかというのがわかるかと思えます。

事務局： 次回の検討課題とさせていただきます。

委員C： 「6. 公共交通運営事業の見直し」について、適正な運賃設定の議論を行うこととしておりますと書いてありますが、市としてはその素案は作られているのでしょうか。今のところは100円ということになっていますけど、100円を上下するか、そういった範囲のことだとかいろんな素案は市の方で持っておられるのでしょうか。

事務局： 料金の値上げにつきましては、市として現在のところいくらにするというところまではまだございません。地域公共交通会議という、また別の玉野市全体の交通に関する会議を所管課が持っておりまして、そちらと協議しながらいくらにするのかを決めていく予定としております。

委員C： 素案はまだ設定していないということによろしいですか。

事務局： はい。

委員C： 「10. 公共施設再編整備の推進」について、こちらに関しましては今までは施設老朽化のために文化センターや市民会館をなくしていますが、それに対するような議題が出ているのでしょうか。

事務局 文化センターや市民会館等のホールの機能を有するようなものについては現在のところ具体的な議論はまだ出ておりませんので、今後玉野市の施設としての必要性のところから議論がスタートしていくかと思えます。

委員C： 私としてましては、これは大きな議題ですのでその分の沿革みたいな文章が少しでもこのページに載っていればと思って質問いたしました。

委員D： まず、パブリックコメントに対して5名の方ということで、私もこれを見たときにちょっとガクッと来てしまったんですが、ただ、一人一人が玉野のことをしっかり考えて書いてくださっているなと読ませていただきました。5人の中で、ふるさと納税についての検討が3名の方からあったということで、多分皆さんの関心ごとはふるさと納税というところも結構大きいのではないかと考えています。私事になりますが、今年の年賀状に神奈川の友達から「ふるさと納税を玉野市にしました。マスカットを楽しみにしています。」という年賀状をいただいてすごく嬉しかったんですが、私が数年前に見たときにマスカットは多分なく、マスカットなんてあったんだと玉野市民ながら思ったんですが、そういうものではなくて、ここに書かれている体験型の返礼品についてもおそらく全国各地から注目を集めている分野だと思うので、ぜひ検討していただきたいんですが、どこの部署が検討するのか教えていただけないでしょうか。

事務局 財政課の中に行革・歳入確保対策係という係があり、こちらで現在ふるさと寄附金事務を行っておりまして、返礼品の拡充やふるさと寄附に関するサイトの拡充などに取り組んでおります。返礼品の拡充については、随時玉野市内の品物もしくは岡山県で共通で利用できる返礼品の品物、こういったものを情報アンテナを高く上げておいて、採用できるものは随時採用しており、常に情報収集している状況です。また、玉野市内で新たに発売されたものなどにつきましても、できるだけアンテナを高くあげてはいますが、そういった情報も広く市民の方などからご意見いただければ各事業者とのお話をした上で採用できるものについては、返礼品として増やしていきたいと考えております。

委員E： パブリックコメントの結果を受けてこの大綱・実施計画は修正はしないということですが、前回本会議で議論し持ち帰らせてもらうという回答をいただいた点もあったかと思いますが、それも含めてということでしょうか。そ

れともこのパブリックコメントだけの話なのでしょうか。確認させてください。

事務局 第2回推進委員会でいただきましたご意見と、その前に議会からもご意見をいただいております。そういったものを勘案して最終修正を入れております。それにつきましてのパブリックコメントということですので、ご意見をいただいたものを検討いたしました結果、それに対する市民の意見をここでいただいて、修正としてはございませんでしたという流れになっております。

委員E： 我々が素案で見たものから何か変わっているということでしょうか。そこを説明いただきたいと思います。

事務局： 主な修正箇所といたしましては、実施計画に対するご意見等を議会からたくさんいただきまして、そういったものを反映してございますが、収納率向上に関する取組シートを課ごとに作っていたものを取組が重複しているということで、以前は5ページだったものを2ページに集約しました。

また、シートの内容につきましても、いただいたご意見を反映しております。また、渋川の観光駐車場利用については、観光の活性化に取り組むのほうがいいが目標額があまりにも小さいので、削除してはどうかというご意見を反映しまして、渋川の活性化につきましては修正を行っております。

また市民目線、市民との協働でいろいろな取組をしていかないといけないというようなご意見をいただきましたので、こちらについては大綱本文にも「市民との協働で」というような言葉を追加したり、また、実施計画の各取組シートにおきましても「市民の目線で」という言葉を追加したりしております。すぐに全部が拾いきれませんが、主なものはそのようなところです。

また、大綱の10ページの4番公共施設の老朽化の上から4行目の市民にとって「安心・安全な」となっていたところを「安全・安心な」に修正しております。実施計画1ページの市税の収納率向上の現状と課題のところの4行目「厳正な滞納処分により」となっていたところを「適正な滞納処分により」と修正しました。また、2ページの成果指標のところ、「過年度分」としていたところを「滞納繰越分」に修正しました。

委員E： ようは、方向性に影響するような大きな変更はないという理解で良いでしょうか。

事務局： 大綱に影響するような方向性を大きく変えるようなものの修正はございませんでした。

委員B： これは一度現場の方に戻されてその結果をまた反映されているということですか。

事務局 はい。

委員E： 前回私が質問させてもらったところで、実施計画の17番「働き方改革の推進」の関係で、仕組み作りというところにスポットが当たっているので、

まず現場の状況なり、そういったところを確認するという観点はどうでしょうかという話に対して、持ち帰って検討させてもらいますという話がありましたが、それは盛り込まれていないようなので、その理由というのをお聞かせください。

事務局： 前回の第2回推進委員会でいただきました意見につきましては、関係する意見を所管課に全て戻しています。その意見を勘案した上で大綱それから取組項目を修正するかしないかについては各所管課で判断をしております、いただいた働き方改革の部分につきましては、今後4年間の取組の中において検討していくということで、主な修正点としては現れてきてはいない状況になっています。

委員F： このパブリックコメントの実施結果というのは、意見をくださった方も同じものを見るようになるのでしょうか。

事務局： このたびの第3回推進委員会での市の考え方を合わせた報告と、3月の定例議会でご報告させていただいた後に市のホームページで公開することとしておりますので、ご意見をいただいた方も市の考え方については見ていただける状態になる予定です。

委員F： 考え方というのは、この意見に対して市の考え方はこれですというのが今示されていると思うんですけど、この考え方の中では「検討します」とか「努めます」といった抽象的な表現になっていますが、「こうしました」といった結果を載せる予定はありますか。

事務局： 取組結果につきましては、来年度からこの計画に基づいて1年間取組を行いまして、12月頃、またこちらの推進委員会でご報告をさせていただき、この取組に関してはここまで進みましたといった実績の報告につきましては、改めてホームページに来年度末頃掲載する予定としています。

委員F： やはりこういった意見をくださった方が、自分の意見がどのように反映されて、こういった結果になったのかがわかりやすく示せたらいいのかなと思いい質問させていただきました。

委員G： 今回意見をいただいたのが5名ということなので、今後こういうアンケートをとる時に、例えば5名で妥当なのか、20名～30名ぐらいの意見がもらえるようなことについても今後検討するのか、この5名から出たからこれでいいというわけなのか教えていただきたいと思います。

最近株を持っていたらQRコードを読み取ると、自分で賛成だったりとかコメントを書いたりするような、自分の名前が登録されているんですね。もっと意見をもらえるような工夫が必要なのではないかという意見とともに、人数があまりにも少ないので、これで方向性を決めるというのもどうなのかと思っています。

事務局： 5人が多いか少ないかと言えばなかなかそれに対して多いとか少ないとか言いづらいところがございます。実務を担当しているとやはりもう少し

ただきたいというところでして、先ほどもいただきました、より意見をいただきやすいような仕組みについては、この行革のみにかかわらず、市としてパブコメをどうやって活性化していくのかという部分になってくるかと思っておりますので、それも含めて手法を検討するよう、パブリックコメントの制度の担当部署にご意見を伝えたいと思います。

事務局 (市長) : 大きな話題になったり、課題として皆さんが認識しているようなことについてはたくさん意見が出ると思うんですけど、この行財政改革は玉野市にとっては結構大きな課題だとは思いますが、現時点では十分伝わらなかったのか、これぐらいの人数になってしまったというところなんです。ですので、パブリックコメントのあり方自体も今言われたプッシュ型といった形でご意見をいただくよう検討するなど、もう少し改善の余地があると思っておりますので検討します。

委員B : 先ほど水本委員もおっしゃったように、この答えたものがどのように反映されるかというところは今お答えいただいたような形で次年度に取組結果を公表します、といったところはここに載っていてもいいのかもしれない。

事務局 : 返し方がどのような形になるかわかりませんが、実施計画は毎年度ローリングして進捗を公表するとともに、次年度の方向性についても公表する予定としておりますので、その部分でこういったご意見に対しても、このように工夫がなされて取組を進めていくというのは見ていただけるかと考えております。

委員H : パブリックコメントの一番最初のご意見についてです。歳出削減をもっと検討するべきではないか、私はこれは重要な指摘だと思います。かつて、玉野市は経常収支比率が岡山県でワースト1でダントツに悪かった。しかもこの間も議論に出ましたけど、基金が底をついたという、もうひどい状況だったわけで。それについては多少今は良くなっていますが、決して忘れてはいけなと。ここで書いている通りですが、歳入確保ももちろん重要です。今回は歳入確保に重点を置いたウエイトがかかっていますね、もう重要です。大いにやらなければならない。しかし、非効率な歳出に対する削減努力は決して緩めたらいけない。ちょっと今よくなってるからといって、緩めたりしては決していけない、これはもう常にそう思う、それが第1点です。

また、いろんなことにお金がかかる時ですけど、私はずっと玉野で生活してきて、PowerX社の蓄電池工場、これは一つの歴史を作るというか、成功すれば玉野市の状況が一変するのではないかという可能性があると思っております。したがって、財政が厳しい折ですけど、市としてもできる限りのご支援をお願いしてぜひ成功させてほしい。これが成功すれば見返りはかなり大きいと思っておりますので、言い方はちょっとトゲがあるかもしれませんが、間違えても会社が伸びる邪魔をしないように、ぜひご支援よろしくお願ひしたいと

思います。

それから最後にもう一点、大綱の 15 ページ「大綱全体の目標」について、これからいろんな支出も出てきて大変だと思いますけど、ここに書かれている財政調整基金残高、これを現状維持するのは大変難しいと思いますが、ぜひ 48.9 億円を維持していただきたいと思います。前回も同じようなことを話したと思いますが、修正は難しいとしても、気持ちとしては、非効率な経費の削減をするためにも、経常収支率はここには出ていませんが、かつて県内ワースト 1 であったことを決して忘れないように、80%台が達成できているからそれは素晴らしいことだと思うんですけど、できれば 80%以下が望ましいと言われていきますから、これは要望になりますけど 80%以下をぜひ目指していただきたい。年度によって多少増減があるのは仕方ないことですが、方向としては目指していただきたいなと思います。

事務局： ただいまのご意見ですが、非効率な経費を削減する努力を怠ってはいけないということで、計画に取組項目としては明記はしてありませんが、従前の取組による効果を維持しつつ、経費削減は常に念頭に置いて各事業に取り組んでいきたいと考えております。

また、企業誘致につきましても新年度新たな施策等含まれておりますが、そういったものを活用しながら玉野市に立地していただけるような事業者を支援できればと考えております。大きくは総合計画の方向性ということに繋がってくるかと思いますが、そちらの方でも支援していく方向で取組をさせていただきたいと思います。

また、大綱の 15 ページの行革大綱全体の目標として、基金残高 48.9 億円を維持するというのをぜひということですが、大綱の目標に掲げておりますので、我々も取組の中でぜひここは堅持していきたいと考えております。また、経常収支比率等はここには載せておりませんが、毎年度財政状況の分析は行っておりますので、できるだけ 80%台を維持できればということで、ご指摘のとおり年度による多少の増減はあるかと思いますが、悪化することをできるだけ避けるように取組を進めたいと考えておりますのでご理解賜りたいと思います。

委員 B： 経常収支比率については 2 ページにグラフとしては載っております。常にチェックできる体制として掲載しています。

パブリックコメントの「11：幼保一体化の推進」のところで、このご意見をいただいた方の気持ちとしてはやはり少人数でやってほしいというご要望だと思うんですが、それに対して市としてはそうではないという考えのようですが、財政的な面というのが実際のところではないかと思うんですが、そういったところにあえて触れなかったのには何かあるんでしょうか。

事務局： こちらの所管が財政当局ではなく、幼稚園・保育園を所管している就学前教育課が回答を考えておりまして、当然財政的な見地で将来は統廃合を進め

ていく必要がある一方で、適正な規模での保育・教育が就学前教育の分野では重要であるという考えのもと、所管課としての意見としています。

委員 I : パブリックコメントの「12：小中学校の適正規模化」ですが、適正化をしてから施設をどう使うか検討するというお考えをしていると思うんですけど、あえて並行して検討できないかなと思います。そうするとまたデメリットとしては、ある程度の規模を想定してあるからそこを考えているのではないかと勘ぐられたりするかもしれないし。空いたから検討するというのではなく、うまく並行してできないのかなと思っています。

事務局 : こちらはある程度学校の統廃合という部分で時間を要するというのは仕方ない部分ではあると思うんですが、いただいたご意見のように並行で進められる部分についてというのものもあるかと思えます。そういったご意見も本日の意見として所管の方にお伝えさせていただきたいと思えます。

委員 I : ただ次に使うところはおそらく教育委員会じゃなくて産業振興課ですか。

事務局 : 次に使うところがどういった使い道になるのかということにつきましては、統廃合した後の使い道ということになるかと思えます。どこを統廃合するかという話にもよるかと思えますが、その計画ができた後、何に活用できるかという議論がスタートするのではないかと思います。詳細がわからない部分はありますが、学校が用途廃止となった場合に次にどういった施設として使うかということは必ず検討しないといけない命題だと思いますので、その検討の必要性についてもお伝えさせていただきたいと思えます。

委員 E : 財政の会議なので、こういうことを言ってもいけないのかもしれませんが、この行財政改革とまた別に総合計画というのを立てていて、本会議は持続可能な財政をキープするという観点で検討している一方で、総合計画では、玉野市の未来あるまちづくりのために積極的にいろんなことをやっているという観点で検討を進めている。前述のそれぞれの方向性が相反していて、このまちづくりなり意見の方向性がどのようにになっていくのかというのは、私は両方の会議に出ているので、非常に複雑なところがあります。今の話をこの立場で聞いていると、全てはやはりお金がないと何もできない。よって、当局のいろんな意見も全ては財政という面に収斂され、その財政の範囲内でできるまちづくりを進めていくという方向性で物事が進んでいくのでしょうか。そうであればおそらく変化に乏しいまちづくりとなり、「夢のないまちだよね玉野は」と捉えられ、転出者が増加していくのではないかとと思うところもあります。財政課としてどのようなスタンスで検討を進めていくという考えなのかお聞かせ下さい。

事務局 : ご質問に対するお答えといたしましては、最初の大綱をつくる時点で行革の位置付けというものが、総合計画に規定する未来のビジョンを実現するために財政的な面で下支えをすると、総合計画で各種事業を行うために財政分野で努力して下支えするという位置付けでございますので、相反する部分は

ありますが、どちらかという総合計画を実現させるための取組であると考えています。

委員E： 限りある財源をどの事業にどう配分し効果的に投入していくかということについて、各種活動の現状維持のみではその財源を確保できないため、様々な角度からの意見がある中において一定程度の「選択と集中」が必要であり、その点について本会議で議論しているということで受け止めておけば良いでしょうか。

事務局： おっしゃる通りです。

事務局 (市長)： 非常に難しいところで、魅力的なまちをつくるためには、ある程度の投資や市民サービスの向上など、これはやっぱりやっていかないと魅力的なまちとは言えません。一方で、その財源はどうするのかというのは常について回るわけなんですけれども、よく言われるのがスクラップアンドビルドということで、何かをやめてこれをやるっていう形になるんですが、やめる部分についてはこれまでの十数年間でいろんなことをやめていっているという、これまでも行革をずっとやってきましたし、そういったところがあって、これ以上やめるものがなかなか見当たらない。また人件費に切り込むというのは最後の最後ですから、そう簡単にできることではないというところから、今回はどちらかという歳入を増やす方向のものにウエイトを置いてる形にはなっております。ただ前向きなことについても、やはり総合計画の中できちんと謳ってここだけはやっていこうというようなことを出していきたいと思っていますので、そこはその都度、バランスを見ながらやっていくということになるかと思えます。

委員H： 会社と一緒にだと思えますよ。結局夢が先ですよ。総合計画が先で立派なまちにするために不必要な経費を落としている。それを捻出していくんだ、企業でいえば、設備投資であり、設備投資のないような会社は駄目でしょう、研究開発設備投資をやるために無駄な非効率な経費をとことん削減するんだと、その場がこの場だと思えますよ。だからあくまでこれはこの間お話したと思えますけど、歳出削減のための歳出削減ではなくて何をやるか、玉野市を立派なまちにするためにいろんなところに投資していく、それを生み出すために、歳出削減は徹底的にやりましょうということで、それははっきりして思えます。市長さんがおっしゃる通りですね。

委員E： はい。そういう夢のあるお話ですよ。

委員H： 夢がなきゃ意味がない。

委員E： この財源を確保するのに「削減削減」というワードばかりが出ると、市民の目からすると、結局費用をそぎ落として市民サービスも低下していくのではないかと捉えられてしまうことが懸念される。そう受け取られると市の魅力がなくなっていくと見えてしまうので、今のような議論をもっと多くの方が知れる、市の思いはこうだ、だから不必要な経費の削減には切り込まない

といけないんだという理解を深めるということが大事なのではないかと思って発言しました。

委員F： 意見としてなんですけれど、やはり市民の皆様と玉野市っていうのは、玉野を持続させて明るい未来に向かっていこうという共通認識を持つことが一番必要だと思っていて、その中で今回パブリックコメントをくれたのがこの5名で、その5名を、ここを大事にしないとおそらくそこから玉野市の動きを市民が注目するっていうこと、注目をさせていくっていう、それで初めて一緒に動いているという一体感というのを市民も感じることによって、辛いところもあるし、ただみんな先の目標は一緒なんだよっていう、そこを共通させるということが必要なのではないかと思います。なので、こういった意見ももらったその結果、市がどのように動いたのかとかというのが伝わりやすく見えるということが必要なのではないかなと個人的に思いました。私も、昔若い頃にちょっと思うことがあって、玉野市役所の意見箱に意見を書いたことがあって、それに対応してくださったんですね。そのことがすごく嬉しくて、そういった小さいことが横に繋がっていく、一生懸命先のことを考えて、こうやってみんなで考えていることが市民の方に伝わらないというのが一番残念というかもったいないと思いますので、その一体感というのは見ていただけたらなと思います。意見です。

委員C： 一応これを見させていただいて、皆さんは歳出に対して、お金に対してはすごいシビアにこの文章を書かれています。でもそれを受け取る市の方としてはそのシビアなものをどの方向に向けていくのか。市の方としてはそれは大きなタイトルがあってお金を使うという魅力的な文章が一向に残っていないので、全部ノーマルな答えだけが出て、市長さんから一言そういったところの魅力ある市民が喜ぶような、喜ぶというか夢のある、ここを読みましたら何も夢だってお金の使い方なんか、お母さんが財布からちょうだいと言えれば全部出ていく、そういったような文章に見えて、いやそうじゃない、知っているものはこういうことがメインで市民が喜ぶようなことを何か一言そういうことが付け加えられるものがあれば説明していただければ。

事務局 パブコメに対する答えということですね。

(市長)：

委員C： はい。

事務局 それぞれのところには簡潔な表現で市の考え方を示してるんですけど、おっしゃる通り、やはりこういうことに使っていきたいとか、夢のあることを提示していくことも大事なことだと思いますので、記載については変えられる部分があればもう少し付け加えていきたいと思います。

委員G： 大綱の7ページですが、収入が入ってこないと人口もどんどん減って行って、プラスに転じていかないと結局どんどん削減する、統廃合する、しぼんでいくので、両輪のような形であればいいのかなと思います。玉野市が思っ

ている都市の再開発と民間が思っている都市の開発の場所も違うとか、例えば荘内は増えているけどこっちはどんどんバラバラになっているとかですね、そこら辺のギャップがあったりとかというのも一度見ながら調べてはどうかなという意見です。

事務局
(市長) :

人口の予測というのは非常によく当たると言われているんですよ。合計特殊出生率とか、それから今の年代別の特に女性の人口を掛け合わせるとほぼ予想通りいく、亡くなる方の数というのも大体予測できる。後は転入転出ですね。今玉野が圧倒的に転出超過になっているというところがあるのでそこは努力をして少し上向きできる、できれば転入超過に持っていきたいというところはあります。ただなかなか一朝一夕でできることでもないの、いろんな施策を積み重ねていく中で希望を持って住み続けたいと、玉野にもっと住みたいというふうに思っていただけの方を増やしていくことがやっぱり大事ですので、そういうことにも繋げていきたいと思っております。今言われた現状と、玉野のまちづくりのミスマッチというのは、私もずっと感じていることで、ただ、都市計画の用途地域の縛りとか、そういうことはなかなか岩盤規制じゃないですけど、ハードルが高いというのを一方で言われていて、本当はどんどん開発が進んでいるとこなんかは用途地域を見直して、そこに住宅とか、場合によっては工場を誘致したりとかできればいいと思うんですが。ここのハードルがなかなか高いというのはありますけれども、まち全体をどういうふうにデザインしてやっていくかというところにやっぱり繋げていかないといけないと思っております。

委員H :

トヨタ自動車も今をときめくトヨタ自動車ですけど、潰れかかったことがあるんですよ。そのときにいろんな経営者が出てきて、まず経費を絞りましたよ。有名な言葉ですが、乾いたタオルを絞る、乾いたタオルをさらに絞る。まずそれがあって、あのトヨタ。スタートはそうだったと思う。どこも厳しいとき、まずやるのが甘い歳入見込みに頼るのではなくて、まず絞るんだと。今あれだけの大会社でも徹底的にやっている。それは一方でやって、それでもう一つ夢のある、先ほどから市長さんもいろいろ言われていますが、ここの場ではなくて総合計画の場だと思えますけど、市民に夢を与えることが一番大切ですから。さっきも言いましたけど、一点集中一点突破、集中してやると。今さっき PowerX 社の蓄電池工場、これをぜひ、いろんな企業誘致の話もおやりになったらいいですけど、これが成功すればまた次の誘致を呼ぶということになるし、PowerX 一社だけでも大変に従業員も増えるし、家族も増えるし、購入もしてくださるんですよ。市長さんのご努力で65%玉野市から買ってくださるのは大変な影響ですよ。だから、ぜひそういうことで PowerX を、今さっきと重なりますけどね。PowerX 以外でもいいですけど、選択と集中。最近はやらないですけど、漫然とやるんじゃないで、経費の削減はもう全部やればいいです。だけど何か力を入れるところはね市

長さん、これとこれで市民に夢を与えるんだ、だから市民に負担をかける使用料の見直しとかこれからいろいろ出てくるんでしょう。だけど、そういうことがあればみんな納得しますよ。いや今さっき言ったトヨタがいい例ですよ。あれが潰れかけた会社だったとあって、あのトヨタが。あれだけの会社になってもいまだにやっぱり乾いたタオルを絞ってますよ。だからそれをうまく玉野市が変なことにならないように、ぜひ素晴らしい玉野市になってほしいと思います。

事務局 (市長) : PowerX さん、本当に玉野市にとっても未来を変えるような大きなことだと思ってます。年末に包括協定を結んで遊休地の絡みありますし、脱炭素化でありますとか、いろんな観光の面とかですね、いろんところで協力ができるといことですので、そういった方向で一緒にいろいろこれから考えていきたい。既に今の脱炭素・カーボンニュートラルに向けては具体的な協議も進めております。そういったところがあればもっと玉野が魅力的なまちになっていくのかなというふうに思っています。ありがとうございます。

会 長 : 本日は大変先に見えるお話とともに財源をどのように確保していくかというお話がある程度できたかなというふうに思っております。また引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。本日はありがとうございました。本日予定していた議事は終了いたしました。

4 閉会

副市長 : 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。またここに限らず、これまで3回の推進委員会の中で様々なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。

来年度からいよいよこの行革の実施ということになっております。委員からいただいた意見がどこに活かされたのかというご指摘もあったんですが、出ているもの出ていないものいろいろあるんですけども、実施に当たりましては皆様からいただいたご意見を胸に、効果的な実施になるよう取り組んでまいりたいと思っておりますのでよろしくお願ひをいたします。来年度後半辺りになろうかと思いますが、進捗状況や状況報告といった場も設けさせていただきたいと思っております。策定については今日は一区切りということですが、引き続き皆様方にはぜひよろしくお願ひをいたしたいと考えております。

「持続可能で魅力的な玉野」に向けて行財政改革に引き続き取り組んでまいりますので、今後とも皆様方にはぜひよろしくお願ひできたらと思ひます。本日は大変ありがとうございました。 (了)